

2025年
8月1日
第498号



JR東海労

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

J R東海労働組合

発行人 淵上 利和
編集人 高山 浩

新たな闘いを展開し、組織展望を切り拓こう！ 各地本定期大会 成功裡に終了

各地本は6月下旬から7月中旬にかけて、定期大会を開催しました。全地本において、JR東海労の組織展望を切り拓くための議論を展開し、企業内労働組合の枠に囚われない闘いを意思統一しました。

新幹線地本

新幹線地本は6月29日、第32回定期大会を開催しました。

伊藤委員長は、挨拶で「ウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナへのジェノサイドなどにより、多くの市民・労働者が犠牲になっている。日本学術会法人化法案を可決させ、戦争政策に組み込まれようとしている。戦争体制づくりは許さない。診断書強要行政訴訟控訴審の判決は、完全勝利を確信する。JR総連派OBは、根こそぎセン



が誕生した。東海の地から労働運動の炎を消さないため、志を同じくする全ての労働者・市民・団体と連携・連帯を勝ち取る。JRひがし労と連帯した取り組みは重要になる」と訴えました。質疑では、「JR東海労を潰すなど言っていた先輩たちが脱退した。組織を割ってはいけない」「斉藤さんが最終勤務の時に、若手社員から花束が渡された。私たちは会社と言うほど変な集団ではないことの証明」「出向先会社で、引継ぎの30分は労働時間外。労働時間にするよう団体交渉を」「若手社員は休日出勤をさせられている。若手社員たちは私たちの闘いを見ている」などの発言が出されました。

土川書記長は、総括答弁で「昨年は、森下君が『書記長を降ろすから総括答弁はできない』と言ったので私がやった。一部OBから『書記長に総括答弁をやらせない、前代未聞だ』と言われた。事実関係も知らずに言うことに愕然とした。現場

静岡地本

静岡地本は7月19日、第36回定期大会を開催しました。

半場委員長は、挨拶で「昨年、袴田さんの無罪を勝ち取った。天竜林業高校事件など、冤罪で苦しんでいる人たちと連帯する。リニア建設差し止め裁判や、各団体の集会にも参加してきた。市民の力で世論を変えよう」。



志を同じくするJRひがし労との連携をつくり組織拡大を実現しよう。一部OBによる組織破壊攻撃を許さないため、現職はOB会と共に闘ってきた」と訴えました。

質疑では、「鹿が出没する所は草が生い茂っている。対策を」「松田駅は夜間のワンマン列車はドア自車扱い。全車にすべき」「315系ワンマン列車が計画されている。前方注視か状態監視かどちらかになる。浜松の豊橋間の津波危険線区での乗客避難、車イス対応など、安全の課題は山積している。名古屋地本と連携していこう」「袴田さんを支援する会から、JR東海労は評価されている。今後冤罪を許さない闘いを行う」「1月23日の本部OB総会後、旧地本OB会への交付金が計上されていないことが発覚した。熊井元事務長は『自由に使った良い金』と誤魔化そうとした。これはOB会員みんなの財政だ。予想されるセン労OB会からの攻撃は跳ね返そう」などの発言が出されました。

山本書記長は、総括答弁で「貴組合は労働者一人一人に寄り添う労働組合の在り方が体现されている」というメッセージを頂いた。評価されている。戦後80年、様々な取り組みを計画している。職場問題は会社に申

し入れる。静岡OBさつき会は反面教師。自分が変えたい現実があれば、組合員として実践しよう」と訴えました。

名古屋地本

名古屋地本は7月6日、第35回定期大会を開催しました。

松山委員長は、挨拶で「今でも『OBさつき会』からの手紙、セン労情報などの組織破壊攻撃がある。これらには地本情報で反論した。本部の労働者支援相談センター設立に、地本も体制準備を行った。組織強化・拡大のため、あらゆる人々と連携、志を同じくするJRひがし労と連携する。地域からリニア建設反対の闘いを進めている方々の協力で、リニア学習会を開催した。更に今後情報共有、連帯を強化する。名古屋地本二代目委員長の中村博之さんに顧問を引き受けて頂いた。指導をお願いしたい。業務改革という名の徹底した効率化に反対し、労働者を守る闘いを組合員一人ひとりが置かれた場所、自信をもって闘おう」と訴えました。



質疑では、「関連会社では水冷ベストで熱中症対策をしているが、他と共用には抵抗感がある」「名鉄豊川稲荷駅の無人化で、名鉄切符でJRに乗り込んだ際、豊川稲荷駅での払い戻しができなくなった」「名古屋臨海鉄道の労働組合はスト権投票を実施し、71名中69名が賛成した。交渉の結果、ベアには応じなかったが、ボーナス0.6ヶ月から1.11ヶ月と各種手当を勝ち取り妥結した」「OB会がなくなると黙ってはいられないという気持ちで闘った。各地本OB会で闘い、本部OB会を残すことができた」「組合員になり、いろんなことに参画したい。人が集まると力になる」「何をOBがグズグズ騒いでいるのか。現職の闘いを応援するのがOBの仕事だ」などの発言が出されました。

御辺書記長は、総括答弁で「私たちはJR総連を脱退し、志を同じくする仲間と共に進む道を選んだ。企業内に囚われない運動を展開する。リニア問題で、川本さん、原さんの協力で学習会を開催した。今後関係強化する。関連会社の要求や職場問題は申し入れを行う」と訴えました。

新幹線関西西地本

新幹線関西西地本は7月6日、第31回定期大会を開催しました。

笹田委員長は、挨拶で「昨年12月、臨時大会でJR総連からの脱退を決めた。強制出向された仲間が共に働いている仲間を守るためにつくったJS労を認めない事が発



端。しかもセン労とセン労OB会結成は、JR総連のシナリオに基づいたものである。多くのメッセージは、孤立していない証左である。休憩裁判と職場闘争を結合させて闘う。『ACCES』に淵上委員長の記事が掲載された。対照的に、JR東海ユニオン書記長は会社の代弁者であることは明白である。苦しんでいる労働者と共に闘っていく」と訴えました。

R総連、熊谷氏は絶対に許さない。JR西労本部は裁判傍聴に組合員の参加を認めない。職場設備の改善でJS労はがんばっている。三島車両所に車両が入る際の安全装置が不具合である。命を守るための安全装置の不具合は問題」などの発言が出されました。

ウソは断固追及する！ 津崎裁判第4回口頭弁論



津崎裁判第4回口頭弁論が7月4日、大阪地裁で開廷されました。

今回も傍聴券は抽選でしたが、抽選に並んだのはJR貨物労組とJR西労の役員を中心とした約30名でした。しかし、法廷には傍聴券抽選に並んでいなかったJR貨物関西支社の課員2名が傍聴席に座っていました。

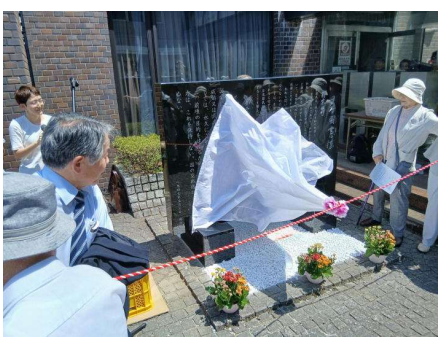
JR西労本部は、今裁判で「JR西労卒の4名

は本部役員で対応するので、各分会には参加要請をしない」との指示を發しました。これは、組合員を裁判に行かせない、裁判内容を知られたくないという証左です。

原告2名は6月12日、JR総連前書記長熊谷氏を提訴しましたが、訴状をJR総連に送ったところ「宛先不十分」で裁判所に返送されました。弁論で被告弁護士は、「熊谷さんは現在JR総連の役員ではありません。専従役員でもありません。出身の盛岡の方に帰られていると思われま

す」と

相次ぐ死亡事故は看過できない！ 緊急申し入れ



マスコミは7月14日、「JR東海の大井車両基地で、発電装置の点検作業をしていた50代の男性作業員が感電したとの通報があった。意識不明のまま病院に搬送された

が、その後、死亡が確認された」と報じました。また7月8日、浜松でも協力会社社員の死亡事故が発生しました。

本部は7月15日、今回の死亡事故は看過できな

「9条の碑」建立 除幕式に参加

ストップ・リニア！訴訟、原告団代表の川村晃生さんが代表呼びかけ人を務める「甲府市に『9条の碑』を建立する実行委員会」は7月6日、甲

府市中心部に建立した「9条の碑」の除幕式を行いました。除幕式にはJR東海労から本橋書記長が参加しました。

川村さんは建立にあたりメッセージで「今後、この9条の碑がここに立ち続けることによって、憲法が親しまれ、平和の大切さが人々に新たに自覚されることを祈っています」と語りました。

除幕式終了後、国際ジャーナリストの伊藤千尋さんから「なぜ9条の碑を建てるのか」と題した講演がありました。

平和のためにJR東海労と闘う！

静岡地本OB会・静岡県9条連合同学習会

静岡地本は6月30日、静岡地本OB会・静岡県9条連が主催する学習会に参加しました。

9条連増田代表世話人は、主催者挨拶で「松崎さんは『われらのインタール』を2007年に発刊

し、会社と闘う労働組合を目指した。しかし、指導部は会社に取り込まれ、闘う人々たちをレッテル貼りし、排除してきた。闘う仲間と連帯して、JR東海労の運動を前進させよう」と訴えました。

地本OB会植松副会長は、「静岡OBさつき会」との闘いの報告で、「涸谷に 名前使われ さつき泣く」と俳句を披露し、この間のやり取りを紹介しました。地本OB会木下会長は、JR総連・JR東労組の問題の報告で、「療原の火の熾として」と題した敬松塾の水沢さんの講演録を紹介しました。

